

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 210

2021・11・24

先生と話して居れば小春哉

—寺田寅彦(物理学者。漱石の門下生)—

日中は暖かですが、暦の上では既に冬
今年もそろそろ終盤です

旧図書館修復工事の再開

図書館に新規職員を！との署名

TOTOMO の長年の活動は

少しずつでも確実に前進している

そんなことを実感した 2021 年でした

○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 旧鎌倉図書館の修復工事が始まりました	…1
☆ 今後を見据えながら司書採用を求めるこれまでの活動を振り返る	…2
☆ バトンを繋ぐ 小島知子 /署名活動感想	…3
☆ 鎌倉国宝館 特別展を観て	…4
☆ 松坡先生をめぐる人々3 片野晃陽 袴田 潤一	…5
☆ 再び、鎌倉市図書館振興基金のこと	…6
☆ 図書館友の会全国連絡会の活動から	…7
☆ 第23回かまくら市民活動フェスティバルin広町の森参加報告	
☆ 協働事業推進部会報告/ボランティア連絡協議会委員会報告	…8
☆ 第2回ファンタスティック☆ライブラリー110実行委員会報告	
☆ TOTOMO に寄贈いただいた本を紹介します /活動日誌	…9
☆ 事務局から	…10



旧鎌倉図書館の修復工事が始まりました



修復工事が再開された旧鎌倉図書館 (2021.11.11 撮影)

議会での承認を受けて、10月中旬から、いよいよ旧図書館の修復工事が始まりました。工事現場の囲いに工事業者の告示とともに工程表が掲示されています。それによると、来年7月ごろまで既存の木造部分の修復工事が行われ、その後に増築されるプレイルームの工事に入り、再来年2月に完成することになっています。

工程表では、今年の12月までは「基礎解体部分構造補強」「既設土間・束等解体」などの工事となっていますが、素人にはよくわからないので公的不動産活用課に問い合わせたところ、一言でいうと建物を支える基

礎部分（主にコンクリート部分）の補強工事がおこなわれるということでした。ちなみに、この工事は建物の土台から上の部分はそのままの状態であるということでした。

旧図書館の修復工事に関して、神奈川県建築士事務所協会鎌倉支部より9月15日付で市長、市議あてに意見書が出されています。そこでは、旧図書館が解体されず保存に向けて工事が再開されることに安堵したとしたうえで、既存構造部材の流用は避けるべきという提言がされています。9月議会の旧図書館工事予算の審議のなかでも同趣旨の意見を述べる議員がいました。

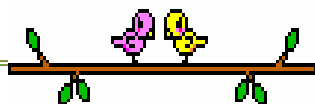
このことについても公的不動産活用課に聞いたところ、昨年行われた劣化調査報告に基づいて対応する、腐食が見られた部材は「根継ぎ」（柱の腐食した部分だけ新しい材を組み込む）という手法は取らず、

丸ごと1本新しい柱に取り替えるが、活用できる部材はかなりあると思うという回答でした。それに伴い、工事現場に掲示されている説明板のなかの「根継ぎ」の説明図は取り外されました。

子どもの家として活用するということで耐震基準を高く設定しており、実施設計でも「注意事項」として補強に関する詳細な指示がされていて、伝統的な木造工法ではなく金物で接合部分を補強する手法がとられています。

歴史的建造物の改修工事では創建時のものがどれくらい残っているかが大事と聞いていますので、文化財登録のことを考えると不安を覚えなくもありません。引き続き工事の進行状況を見守っていきたいと思います。

(和田安弘)



今後を見据えながら司書採用を求めるこれまでの活動を振り返る

司書の新規採用を要望する陳情が議会で採択されて2カ月近く経ちますが、行政内部でそれがどう扱われているか市民には見えていません。図書館をはじめ関係部署に問い合わせても回答は得られませんでした。そのため進行状況の報告はできませんので、これまでの活動の中で浮かび上がってきた論点を整理し、議会への働きかけなど、今後の活動に生かしていきたいと思います。

論点①「職員数適正化計画」について

この計画は定数削減、非正規化、民間委託をどの業務で実施するか具体的に定めています。図書館については、地域館の司書が退職した場合は新規採用による補充はせず、非常勤嘱託員（今でいう会計年度任用職員）を充てるとしています。これが司書採用の阻害要因になっています。2015年、この計画を受けて地域館の職員体制を非正規化する案が図書館協議会に諮問されましたが、試行した結果、実施は困難ということが確認され実質的に撤回された経緯があります。

来館者数や貸出数などの地域別統計資料、市民アンケートや地域住民との協働事業実績などから、地域館の役割は大きく、それに比例して地域館の司書の役割も重要だということが明らかになったからでした。先の議会で多くの指摘があったように、少なくとも図書館に関しては「職員数適正化計画」を早急に見直すべきだと考えます。それと同時に地域館の重要性に鑑み、4館ある地域館に最低2名以上の技術職の司書を常時配置できるだけの技術職員数の確保が必要だということも指摘しておきます。

論点② なぜ「技術職」でないといけないのか

司書の力量を高めるには経験がものを言います。そのためには継続的かつ長期の勤務が求められます。そのような図書館勤務を担う覚悟や意欲をもった人材を確保するためには「技術職」として採用することが有効であり、経験を積み重ねて仕事に習熟した有能な司書の獲得こそが、結果的に効率の良い職員体制を可能にするのではないのでしょうか。

このことは何よりも事実が証明してくれています。全国の図書館状況を示す統計資料で同規模自治体の図書館を経年変化で確認すると、鎌倉市図書館のサービス実績や職員の有資格率は上位にあるものの、予算規模は低位に沈んでいます。予算が少ないのにサービスが充実しているというのは司書の優秀さがもたらしたものであり、そしてその優秀性を担保しているのが「技術職」としての採用にあったと考えます。そして1995年以来30年近く「技術職」の不採用を経て、今やその有効期限が切れようとしているのです。

論点③ 鎌倉の図書館固有の課題にどう対処するのか

一番にあげるべきは近代史資料室を機能させるという課題です。創立当初から続く市民からの寄贈資料が多

数保存されている貴重な資料室です。所蔵されているすべての資料を整理の上データ化し、誰もが検索し利用（閲覧）できることが長年求められています。しかし、常駐する専任の司書が配置されておらずその作業は進んでいません。そのためには、少なくとも2名の専任の司書を配置する必要があります。

また、市庁舎の深沢地区移転に伴う本庁舎跡地への中央図書館移転が俎上に挙がっており、それが具体化したときにどのような中央図書館をつくるのか、深沢図書館の在り方も含めた新たな図書館建設計画の策定が求められます。新しい中央図書館を建設するよりもはるかに複雑な作業であり、司書のもつ力を十二分に発揮してもらわなければなりません。

以上、論点①～③について検討した上で、司書資格を有する「技術職」の新規採用が緊急に進められるよう願っています。他都市の例にあるように、「技術職」の採用を掲げて公募することにより多数の応募が予想され、優秀で熱意ある人材の確保が保障されと考えます。市民の声や議会の判断を尊重し、スピード感ある対応を要望する次第です。

尚、10月15日に教育委員会へ提出した最終署名数は4235名です。

(和田安弘)

今回TOTOMOが始めた署名運動には、鎌倉市にとどまらず多くの地域の方が賛同してくださいました。そのおひとりからご寄稿いただきました。

バトンを繋ぐ ～署名活動に参加して～

社会福祉士 小島知子

社会不安が強まり財政がひっ迫すると、生活に直結するものやマスコミで騒がれている問題への対策がどうしても優先されがちになります。が、たとえ目立たなくても切り捨ててはならないこと、確実に繋いでいかななくてはならないこともあるのだと思います。

鎌倉の図書館に新規の正規司書を！という要求は心に響くものがありました。受け継がれてきた鎌倉の文化、貴重な資料、人々のコミュニティは、確かな担い手に繋ぎ、守り続けていくべきです。

私が某自治体の障がい児療育の現場に勤務していた1990年代、新自由主義による社会保障削減、人員削減が正論のように語られ、高齢者福祉には金を出しても子どもは二の次、まして障がい児は少数でしょ、という雰囲気の中、仕事の量と質を守っていくのは日々しんどかったです。それでもなんとかバトンを繋いでいこうと、あちこちの現場で地道な実践が積み重ねられ、今は児童発達支援という地域になくてはならない社会資源となっています。

どのような状況下でも繋いでいかなければならないバトンがある。長い歴史の中、懸命に守り続けた確かな担い手がいたからこそ、今も輝き続け、人々の心と暮らしを支えているものがある。

鎌倉の文化、貴重な資料、人々のコミュニティ、その大切なバトンが、新規の正規司書の方に渡りますように！

電子署名に添えていただいたご意見より

鎌倉の図書館はレファレンスをお願いした経験があります。大変的確で、調べた内容も詳しく感心した覚えがあります。資料に精通した司書さんがいるからできたことです。県内の図書館でもトップクラスです。優れた司書職制度を維持・発展させ、県内の図書館の模範としてがんばってください。(M.H)

図書館の重要性は、いくら強調してもしすぎることはない。民間委託NO！と頑張ってくれた「図書館ともだち・鎌倉」を応援します。(F.K)

賛同します。図書館において、司書の資格をもつ正規職員の採用は当然のことだと思います。(K.O)



鎌倉国宝館 特別展

生誕 150 年記念「間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館～その知られざる物語～」を観て

10 年前、『鎌倉図書館百年史』編纂事業に携わった折、明治期の鎌倉図書館は東郷慎十郎、昭和の町立図書館では間島弟彦・愛子夫妻が多大な貢献をされたことをそのお名前と共に初めて知りました。明治 40 年代、鎌倉は全戸数の三分の一が別荘で、大正初め、別荘に住む人は鎌倉同人会を作り、鎌倉のまちづくりを文化面で支えました。

今回の特別展では、新たに見つかった間島弟彦の肖像写真をはじめ、学芸員の金子智也さんの「【総論】『鎌倉国宝館庶務日誌』に見る鎌倉国宝館の黎明期」と題する史資料の読みときが図録に詳しく記されています。国宝館が行政の指示ではなく、同人会をはじめとする多くの住民や有志によって誕生した博物館であり、間島弟彦と、その遺志を受け継いだ愛子夫人による寄付は、国宝館の運営を安定させ、存続を決定づけたとあります。

上記『庶務日誌』は開館当初から、一日も欠かさず同じ様式で来館者名など、例えば愛子夫人の来館、詳細な記録が今日まで 90 年以上、手書きで書き継がれてきているそうです。また、行政文書や手紙などの綴り『庶務綴』も残されていて、当時の町長が愛子夫人へ出す礼状下書きが綴られています。これらはガラスケースに収まり、関連ページが開いてありますが、残念なことに読むのは大変です。100 年近い日々の史資料を手にとって読めるよう、開示できる方法はないのでしょうか。「間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会」で手にすることが出来たら、間島弟彦・愛子夫人の周辺は懐深く広がると思いました。文書館を切望します。いま、弟彦さんがいらしたら、文書館作りましようと言われたに違いありません。

間島弟彦・愛子夫妻が青山学院間島記念館をはじめとする、教育・文化施設に多大な関心を寄せられた理由はどこから来たのでしょうか。「図録」の間島弟彦略年譜には、20 歳で米国の大学へ留学し、30 歳を過ぎては銀行員として欧米へ度々赴任されたとあります。おそらく彼の地で大学図書館、博物館、美術館へと足を運ばれその価値を十二分に理解されたためではないかと思いました。

また、夫妻は佐佐木信綱門下の歌人でもあり、ご息子が学業半ばで結核のため逝去されたとき、

「今の世のほこりも富もうたかたの水泡の如し汝をし思へば」と弟彦は詠んでいます。

様々なことを考えた、貴重な特別展でした。

(曾原糸子)



特別展開催中の鎌倉国宝館

◎鎌倉国宝館で展示中の「間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館～その知られざる物語～」は 12 月 5 日で終了します。毎水曜日 14 時より実施される学芸員によるギャラリートークが好評です。ぜひお出かけ下さい。

会報 208 号でご案内した松坡文庫研究会講演会「七里ヶ浜ボート遭難事故と田辺新之助」（講師：袴田潤一）が盛況のうちに終了しました。鎌倉市図書館ホームページに当日のレジュメと会員によるまとめが公開されましたのでご覧ください。 <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/>

松坡先生をめぐる人々 3 片野晃陽

松坡文庫研究会 代表 袴田 潤一

大正から昭和初期に大巧寺に住した片野晃陽は日蓮宗僧侶であり、優れた漢詩人でした。松坡先生との親交は、先生が鎌倉に住むようになった1905（明治38）年頃から始まり、晃陽は松坡先生の漢詩の弟子、松坡先生が主宰した松社の同人で、前回取り上げた阪正臣の喜寿祝に書画を寄せた鎌山同人にも名を連ねています。

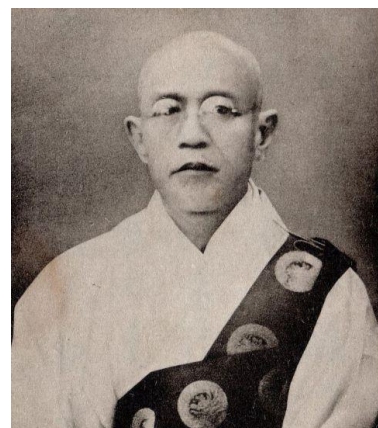
晃陽没後に松坡先生によって編まれた『晃陽詩鈔（上・下）』（1936）巻末の「慈雲院日實聖人行状」（日蓮宗管長酒井日慎）と、松坡先生による序から晃陽の履歴を追ってみます。

片野晃陽（字は玄貞）は1878（明治11）年9月16日、栃木に生まれました。両親が日蓮宗藤原日迦上人に深く帰依し、11歳で得度。16歳で龍口寺宗学林に入り、池上中壇林、雙榎大壇林に学びます。修学は10年に及びました。26歳の時に田中智学の知遇を得、その活動を支えました。大壇林卒業後、腰越本龍寺の住職となり、1917（大正6）年には大巧寺（おんめさま）の住職に転じます。鎌倉で日蓮主義伝道会を創設し、由比ガ浜で納涼伝道を行いました。一方、漢詩は片瀬で療養していた北條鷗所、また大久保湘南らに学びました。松坡先生の朱筆が入った詩稿本二冊が残されています。松坡先生は「その才調は流麗にして清新秀美。心に刻み臓腑を剝るようにして一字を詠み、安んずることがない。苦吟すること殆ど寝食を廃するが如きで、完成した詩の華やかで美しく繊細巧緻なさまは類を見ない」（晃陽詩鈔序 原漢文）と晃陽の詩を称えています。

『晃陽詩鈔』には、松坡先生の教育功労賞受賞を祝う詩、松坡先生の朝鮮旅行を送る詩、松坡先生の古稀祝いの詩などが収められ、松坡先生との親しい交友が窺えます。

1928（昭和3）年の初夏に詠まれた晃陽の詩の一つを紹介します。「初夏陪田邊田中兩先生泛舟一江

境河經船堀江出江戸川舟中即興（初夏、田辺田中兩先生に陪し、一江に舟を泛べ、境河より船堀江を経て江戸川に出づ。舟中での即興）」と題された二首のうちの其一です。



晃陽片野玄貞上人 『晃陽詩鈔』より

扁舟盪入碧流間 扁舟 盪入す 碧流の間
儘使水風吹我顔 水を俛使し 風 我が顔を吹く
五月南薰新緑美 五月の南薰 新緑 美なり
鏡中鬢影是何山 鏡中の鬢影 是れ何の山か
盪入はゆったりと行くさま、南薰は南からの快い夏の風、鬢影は鬢の形の（山型の）美しい姿。結句で「是何山」と問うていますが、富士ですね。初夏の爽やかな風の中、晃陽は松坡先生・田中智学先生と共に、浦安境河に小舟を泛べ、船堀江を経て江戸川へと遊覧しました。「鏡中鬢影」とあり、写真機を構えていたのかも知れません。

晃陽は1931（昭和6）年秋、体調を崩して10月23日に急逝（享年54）。松坡先生の追悼詩があります。「天何奪晃陽 寸寸斷吾腸 師弟因縁在 春秋唱和長 歸依惟妙法 雋麗好文章 揮淚展遺墨 濁焚心字香（天、何ぞ晃陽を奪い、寸寸に吾腸を斷つ。師弟の因縁ありて、春秋唱和すること長し。歸依するは惟だ妙法のみ、雋麗、文章を好む。涙を揮いて遺墨を展べ、独り心字香を焚く。）」 雋麗は優れて麗しいさま。冒頭二句の悲痛な慟哭が胸を打ちます。

晃陽の詩稿から500首を選び、松坡先生と田中智学の序、日慎上人の「慈雲院日實聖人行状」を添えて『晃陽詩鈔』が世に出たのは、晃陽没後5年の夏のことでした。

再び、鎌倉市図書館振興基金のこと

先日、朴澤館長と市内の或るお店に伺いました。TOTOMO の会報を毎号お届けしているお店です。前号をお届けした際、「今年は忙しくしてまだ図書館振興基金に入れていないから」と寄附金をお預かりしました。粗相があつては大変、と直後に中央図書館の総務担当の職員にお手渡した上で、入金手続きが終了したらぜひ領収書をお届けしてほしい旨お願いしました。ほどなく、館長から「手元の領収書を持参し、長年にわたる応援に直接お礼を申し上げたいと思っています」とのご連絡がありご一緒させて頂くことになりました。

このお店に当会がご縁を頂いたのは、2002 年に行った TOTOMO の 5 周年記念事業の時でした。2001 年におきた同時多発テロ事件とその後のイラク戦争開戦などで世界中に不穏な空気が立ち込め、皆が固唾をのんでその行方を見守っているころでした。メンバーで話し合い、5 周年記念企画として「私たちの平和な明日を紡ぐために」をテーマに事業を組み立てることを決めました。

「不透明な時代だからこそ、確かな未来を紡ぐためには多種多様な資料を見聞きし、自らの頭で考え判断していきたい。そのためには偏りなく全方位の資料がそろっている図書館はとても大事だし有効ではないでしょうか？」がその意図でした。実行委員会を重ねるうちに映画会、写真展、講演会など企画はどんどん膨らんでいきました。発足したばかりの NPO に金銭的な余裕はなく（今もありませんが）、知己の市民グループや町のお店にご理解頂きご支援をお願いしていこう、との意見がまとまりました。まだクラウドファンディングなどなかった頃の話です。寄附をして下さった皆様へのお返しは会報やチラシ、記録集への広告記事掲載と映画会のチケットをお渡しする程度のことしかできませんでした。怖いもの知らずの厚かましきだったかもしれませんが、どの催しも多くの参加者に恵まれ、様々な形で支援して下さいった皆様に無事に終えたご報告ができた時はホッとしました。

快く応援して下さいったお店や市民団体の皆様にはその後も会報をお届けし、折々の活動を見守って頂いていますが、2011 年に「鎌倉市図書館振興基金」が成立したときは、当時の総務担当の職員さんと一緒に図書館振興基金の説明に伺わせて頂きました。今回おたずねしたお店では、基金創設の初年度から毎年継続して図書館にご支援下さり、市民の一人として有難く思っています。だからこそ、この度館長自らが長年の変わらぬ応援にたいして丁重なお礼を直接伝えて下さったことが嬉しくてなりません。

この振興基金を活用して貴重資料第一号を購入した当初は、お披露目会と称して寄付者の皆さんにご連絡を差し上げ、ともに作品を観覧し喜びを分かち合ったことがあります。最近は基金を活用しても広報されることが少なく、誠に残念に思っています。そればかりか、一般予算で充当すべきものを振興基金でまかなおうとするような筋違いの提案も少なくありません。年を経ると振興基金成立に汗を流して下さいった教育長や部長、議員の皆さんが退かれ、苦労や喜びを共にした図書館員や図書館協議会委員も替わっていきます。だからこそ初心に帰り、今一度図書館振興基金条例の内容や意義を関係者でしっかり確認していただきたいと願っています。そのような振り返りや語り継ぎこそが、小さく生まれた図書館振興基金の大きな成長につながっていくのではないのでしょうか？

（阿曾千代子）



図書館友の会全国連絡会の活動から

衆議院選挙が終わりました。図友連は 10 月 11 日「公立図書館の振興・発展に関する政策」についての公開質問状を各政党に送り、回答をホームページに掲載し情報提供に努めました。

<http://totomoren.net/blog/?p=1056>

質問内容は次の 2 点です。

- (1) 公立図書館の振興・発展に関する政策についてお考えをお聞かせください。
- (2) 「活字文化議員連盟・公共図書館プロジェクト」の「5 つの提言」について、お考えをお聞かせください。

[public_libraryB5_2C.indd \(mojikatsuji.or.jp\)](#)

<5 つの提言>

1. 首長の指導力と住民参画による図書館運営
2. MARC 選択の多様性確保と NDC の付与
* 機械可読目録 (MARC: MACHINE-Readable Cataloging)
* 日本十進分類法 (NDC: Nippon Decimal Classification)
3. 図書納入は地域書店を優先
4. 司書の社会的地位の確立
5. 新しい評価指標づくり

早速届いた各政党からの回答は何れも丁寧で詳細なものでした。ぜひご参照ください。(添付資料①)

(阿曾千代子)

第 23 回かまくら市民活動フェスティバル in 広町の森 参加報告

第 23 回 NP0 フェスティバルが 11 月 13 日 (土)・14 日 (日) 10:00~15:00 に広町の森で開催されました。

今年のテーマは「さあ描こう！自分のミライ」。

昨年までは屋内で開催されましたが、今年度は屋外となりました。展示は壁から木の幹や枝へ、ミニツアーやワークショップは芝生の上や木々の間となりました。各 NP0 団体の活動紹介のパネル展示のほかに、広町の森の中を歩く企画や焼き芋等もありワクワクしました。



TOTOMO は 二日間〈小竹が谷広場〉の枇杷の木でパネル展示、14 日 (日) 11:00 と 13:00 に〈入口芝生広場〉の芝生で「おはなしひろくせん」による『おはなし会』を行いました。絵本や紙芝居はもちろんですが子供たちと一緒に飛んだり跳ねたり踊ったり歌ったりして、楽しく過ごすことができました。

初めての屋外開催でしたが、お天気にも恵まれ、多くの方に参加していただきました。

今回のフェスティバルは準備期間が短かった上いつもと違う屋外での開催でした。実行委員会のスタッフの方々はご

苦労が多かったことと思います。心より感謝申し上げます。

(水岡やす子)

かまくら銀幕上映会のお知らせ (主催: ドリーム・アーツ (03-5969-8081) 於: 鎌倉芸術館小ホール

12/ 9 (木) 『いのちの停車場』

12/22 (水) 『アメイジング・グレイス アレサ・フランクリン』

1/ 7 (金) 『5 月の花嫁学校』 1/20 (木) 『MOTOWN メイキング・オブ・モータウン』

◎前売り券: 1000 円 (当日券: 1300 円) ◎上映時間①11:00~ ②14:00~

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館 (0467-48-5500) へお問い合わせください。

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます



協働事業推進部会報告

(10月22日(金) 15:00~16:30 於:NPOセンター鎌倉 2階)

出席者:4名(欠席2名)、オブザーバー2名、地域のつながり課1名(計7名)

地域のつながり課では、今年度の協働事業に関する職員研修はオンラインで実施し、その後試験を行うとのこと。同課より課題のテスト問題案2~3案作成の依頼があり、部会案を提出しました。

「多文化共生社会の推進」をテーマに関連団体とどのように協働事業として企画していくかの話し合いを続けています。一方、共生共創部の担当課とも話し合いましたが、市民団体からの提案に対して積極的な姿勢は感じられませんでした。協働事業の意義を更に理解していただく工夫が必要なようです。

また今後、多文化共生以外のテーマでも団体に呼び掛けができるよう、検討していきます。

※11月19日(金)開催の部会には欠席したため、議事録を参考に報告しました。

※市役所駐車場が有料化されました。市役所関連(含NPOセンター)利用の場合1時間は無料のようですが、超える場合は担当課にご相談ください。<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/qa/shisetsu/shisetsu0002.html> (黒瀬聖子)

ボランティア連絡協議会委員会報告

(10月21日(木) 於:福祉センター)

10月21日に、今年度初めての委員会を開催しました。30団体以上の参加があり、皆笑顔で和やかな雰囲気で行なうことができました。

赤い羽根共同募金の報告と協力へのお礼や中間決算報告の他、新加入の2グループの紹介もありました。「Nami-nications」と「かまくら防災士ネット」です。11月24~29日にJR鎌倉駅地下道ギャラリーでのパネル展にはこの2グループのパネルも登場しますのでぜひご覧ください。

12月16日には委員会終了後、今年度最初のミニ研修を実施する予定です。「知っているようで知らない 有料老人ホームとは?」と題し、(株)介護施設研究所の齋藤代表にお話いただきます。ボラ協登録団体のメンバー誰でも参加可能です。ご希望の方は当日11時前に福祉センターまでお越しください。

(黒瀬聖子)

第2回ファンタスティック☆ライブラリー110実行委員会報告

(10月21日(木) 於:鎌倉生涯学習センター第3集会室)

10月21日(木)14:00~15:30 ファンタスティック☆ライブラリー110実行委員会が行われました。3団体4名と図書館員3名の合計7名の参加でした。

今年度は図書館開館110周年にあたります。図書館は、110年の歩みを紙芝居や動画で、また100周年以降この10年に何があったか各館ごとの展示を考えています。かまくら女性史の会では、鎌倉の幼児教育について展示と動画で発表の予定。松坡文庫研究会は、前回と同様に展示と動画で研究発表の予定。間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会も展示と動画で参加の予定。おはなしひこうせんでは、鎌倉ゆかりの絵本作家の作品をパネルと絵本で展示する予定。

広報かまくら2月号に掲載するため、12月10日までにタイトルと概要をメールで図書館へ連絡。展示物や動画の持ち込みの締め切りは、1月15日。会期は2月11日~3月21日で、先に地域館を巡回し、最後に中央館で展示の予定です。昨年度と同様、展示物の写真は図書館のHPにアップします。

来年度のファンタスティック☆ライブラリーでの新たな団体への呼びかけや参加については、中高の新聞部やNPO団体(高校生主宰の団体にも)、自治会や商工会などに声掛けをしたらどうかという案が出ました。新たな団体の参加については、現在ある図書館関連団体の縛りをどうするか、参加資格を設けるかなど今後検討が必要です。

今回の実行委員会は、ファンタスティック☆ライブラリー終了後になりますが日時は未定です。

TOTOMOからは、阿曾(松坡文庫研究会兼務)、杉崎が参加しました。

(杉崎敦子)

TOTOMO にご寄贈いただいた本を紹介します！



①『鎌倉カルテット 四重奏』 梶野陽(とがのよう)著 2021 年港の人刊

鎌倉在住の著者が鎌倉を舞台に鎌倉・江戸・大正・昭和時代の著名人を題材にして書かれた 4 部作です。江戸時代の物語の中に【藤沢宿代官江川太郎左衛門、西洋砲術の高島秋帆等】が登場します。この書を読むこと数日前『玉縄歴史の会』で江川太郎左衛門に関する講演を聞いたばかりでこの名前は記憶に新しく、実在の人物が記載されているのを身近に感じ、『鎌倉カルテット』を読み進む事更に興味が湧きました。出版社「港の人」よりご寄贈いただきました。(阿部光世)



②『かこさとしの手作り紙芝居と私』 長野ヒデ子著 2021 年石風社刊

昭和 30 年代に子供だったセツルメント時代の子供達は、人柄学びを加古さんを通じ、作品を通じてなされていたと読みとりました。「表面上の面白さでなく、内容の高い面白さを、子どもたちはちゃんと見わけの目を持っていることを教えられた。」作品を作り演じることによって、子供達から得た創作姿勢だそうです。

なぜ誰もが大好きな絵本作家、加古里子さんが誕生し、育まれ、世界にも広がっていったのか、長野ヒデ子さんのあたたかく、軽快な文章によって、ひととられます。加古さんとの出会いは、福岡大宰府で文庫活動をしていた時、子供たちとお手紙を差し上げ

たら「子どもたちに会いに行きます」とのご返事があってからのことです。

加古さん辞世の句、エピソードに泣けます。「雪彼岸 わが人生に 似たるかな」

著者長野ヒデ子さんよりご寄贈いただきました。

(星美由紀)



③『ふるさと大学伊予塾 講義録 コロナ禍に想う』 ふるさと大学「伊予塾」実行委員会編

「伊予塾」は伊予・愛媛県出身者や愛媛ゆかりの方々を講師とする県民講座です。この本はその特別講座「コロナ禍に想う」の講義録で、2020 年 5 月から 1 年間にわたり愛媛新聞に掲載されたものを編集した一冊です。

100 年に 1 度と言われる今回のコロナ禍に深く思いを致し、さらにまた後世に語り継いでいくための一助になればという願いから、12 名の「伊予塾」講師(僧侶・医師・物理学者・弁護士・作家・スポーツ選手など多様な分野の方々)が文章を寄せています。その中に、長野ヒデ子さんも。いろいろな考え方を知る機会を与えてくれる一冊です。

長野ヒデ子さんよりご寄贈いただきました。

(古矢良子)

☆上記①、②は鎌倉市の図書館で借りられます。③については TOTOMO 事務局にお問い合わせください。

TOTOMO 活動日誌 (10/5~11/24)

10/6	読書会	10/22	西鎌みんなの家 子育てサロン見学
10/6	間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会	10/22	協働事業推進部会出席
10/14	ボランティア連絡協議会役員会出席	11/4	会報録音版作成勉強会
10/15	教育委員会へ最終署名数提出	11/11	ボランティア連絡協議会役員会出席
10/17	図問研神奈川支部例会出席	11/13, 14	NPO フェスティバル参加(広町の森)
10/21	おはなしひろくせん勉強会	11/18	おはなしひろくせん勉強会
10/21	ボランティア連絡協議会委員会出席		ロビー活動 随時
10/21	F☆L 実行委員会出席		定例会 7 回 (10/13, 20, 27, 11/10, 17, 24)



COVID-19の感染者が減り始め、人々の活動が少しずつ戻りつつあります。
この2年で学んだことを生かして、来年は良い年にしたいですね。

第24回 2021年度会員総会

日 時: 1月30日(日) 10時~12時

場 所: NPOセンター鎌倉にて

今までの活動を振り返り、今後の活動につなげるために今年度も会員総会を行います。
詳細は、211号に添付する総会資料をご覧ください。COVID-19感染状況により
開催方法が変更になる可能性があります。

お問い合わせは、黒瀬 (TEL/FAX 0467-22-8545) まで。

おはなしひろくせん勉強会

日 時: 12月16日(木) 10時~12時 場 所: 福祉センターにて

テーマ: 鎌倉ゆかりの絵本作家の作品(フェンタスティック☆ライブラリー・110での
展示テーマ) おすすめの絵本や紙芝居などをご紹介します。

お問い合わせは、黒瀬 (TEL/FAX 0467-22-8545) まで。

読 書 会

日 時: 11月26日(金) 11時~12時半 場 所: NPOセンター鎌倉にて

テーマ本: ヴェルコール著『海の沈黙・星への歩み』(岩波文庫)とブレイディみかこ著
『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(新潮文庫)です。

お問い合わせは、杉崎 (TEL/FAX 0467-41-4956) まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時: 12月1日(水) 13時半~16時半 場 所: NPOセンター鎌倉にて

お問い合わせは、鈴木 (TEL 090-4728-5242) まで。

※上記の各会については、COVID-19感染の状況により、変更になる可能性があります。

参加される方はTOTOMOのHPやFBでご確認いただくか、お問い合わせください。

※会計より・年度末が近づいています。お立て替えいただいた分の精算が済んでいない方は
お早めに杉崎 (TEL/FAX 0467-41-4956) までご連絡ください。

★図書館友の会全国連絡会 ※オンライン会議やMLを駆使して4つのプロジェクトが同時進行で進んでいます。

①司書職制度プロジェクト(持続可能な司書職制度の確立のために全国組織として何ができるか議論を深めています)

②ツタヤ図書館プロジェクト(10年前に佐賀県武雄市から始まったいわゆる「ツタヤ図書館」ですが、導入直後、
5年後、10年後の経年変化を検証し、課題をまとめていきます)

③アンケート検討プロジェクト(2020年度に実施した「全国図書館アンケート調査」の詳細分析を行っています)

④要望書検討プロジェクト(①~③の成果をもとに関係各処への要望書案をまとめます)

お問い合わせは、阿曾 (TEL/FAX: 0467-45-5731) まで。

編集後記 * * * * *



☆延期になっていたNPOフェスティバルが、広町で行われました。ひろくせんのおはなし会も
久しぶりでした。おっかなびっくりですが、集うことができるのはうれしいことです。(A.S)

☆COVID-19禍の下、自粛自粛と唱えながら2年近くを過ごし、2021年も残すところ1か月。
今年最後の会報発行となりました。第6波が来ないことを祈りつつ…みなさま、今年もお世話
になりました。(M.S)

題字・巻末カット: 小島寅雄

2021年11月24日発行

図書館とともだち・鎌倉(代表: 和田安弘) 編集: 阿曾・黒瀬・目黒・杉崎・斉木

事務局: 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34(黒瀬) TEL/FAX 0467-22-8545

HP: <http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail: toshokantomodachi@gmail.com

